

地理Bシラバス（4単位用）

教科名	科目名	対象学年	単位数	教科書
地歴	地理B	2年	(2単位)	「新詳地理B」「新詳高等地図」「COMPLETE2022」帝国書院 「サクシード地理」(啓隆社)
		3年(理型)	2単位	
		3年(応用理型)	2単位	

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 学習計画（2・3年継続履修）

[2年] (2単位用)

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい		
1 学期	4 (5)	第Ⅰ部 さまざまな地図 と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第2章 地図の活用と 地域調査	地図の発達 1 現代世界の地図 2 世界観の変化と地図 地図の種類とその利用 1 地球上の位置 2 時差の求め方 3 地球儀とさまざまな地図 地理情報の地図化 地形図の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を地図化するメリットや地図化でわかることを理解する。 ・人々の世界観が変化するにつれて世界地図も大きく変化してきたことに気づかせる。 ・地球上の位置を表す際に用いる緯度・経度・赤道・北極点・南極点について理解する。 ・日本とロンドン、日本とNYなど時差を求める基本的なしくみについて理解し、東経・西経の違いから時差を導きだすことができる。 ・メルカトル図法・逝去方位図法・地球儀などの利点や図法の特徴について考察する。 ・地形図で用いられている地図記号について理解する。 		
	15 (5)					
	6 (7)	第Ⅱ部 現代世界の系統 地理的考察	世界の地形 1 地形の成因 2 地球規模の大地形 3 河川と海岸の小地形 4 そのほかの特徴的な地形	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上にはさまざまな地形が分布しており、その要因に内的営力と外的営力が作用していることに気づかせる。 ・内的営力や外的営力が作用してつくられる大地形にはどのようなものがあるのか、それぞれの地形の特徴について理解する。 ・特徴的な地形についてその形成過程や特徴について理解する。 		
	7 (5)					
2 学期	9 (7)	第1章 自然環境	世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 気候と植生・土壌 4 変化する気候 日本の自然の特徴と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・気候と気象の違いを理解し、気候の成り立ちについて考察できる。 ・ケッペンの気候区分の分類の指標について理解し、それぞれの気候区の特徴とそこに住む人々の生活の様子を考察させる。 ・各気候区の植生と土壌にどのような違いがあるか理解する。 ・長期的な気候変動と気候の変化が生活にどのような変化や影響を与えるのか考察する。 ・日本の自然の特徴と人々の生活について地形や気候の特徴と自然災害の特徴を理解するとともに、開発のあり方を考察する。 		
	10 (7)					
	11 (7)	第2章 資源と産業	1 世界の農林水産業 2 食糧問題 3 世界のエネルギー・鉱山資源 4 資源・エネルギー問題 5 世界の工業 6 第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産と流通について農業地域区分を通して大観し、現代世界の農業の現状と課題および世界の中の日本の農業の課題について考察する。 ・人口、食糧問題について世界の人口の動向と食料生産の地域的かたよりについて理解する。 ・エネルギー、鉱山資源の生産と消費についてその分布を大観し、現状と課題について考察する。 ・工業製品の生産と流通について、世界の工業地域から理解する。現状と課題についても日本と比較しながら考察する。 ・第1、2次産業との違いとその発展の経緯について理解する。 ・世界を結ぶ交通、通信について、その発達と地域差について考察する。 ・現代世界の貿易と経済圏について現状や課題、世界の中での日本の貿易の課題について考察する。 		
	12 (5)					
3 学期	1 (5)	第3章 人口 村落・都市	7 世界を結ぶ交通・通信 8 現代世界の貿易と経済圏	<ul style="list-style-type: none"> ・第1、2次産業との違いとその発展の経緯について理解する。 ・世界を結ぶ交通、通信について、その発達と地域差について考察する。 ・現代世界の貿易と経済圏について現状や課題、世界の中での日本の貿易の課題について考察する。 		
	2 (6)				1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口、食糧問題について世界の人口の動向と食料生産の地域的な偏りを考察し、日本の少子高齢化の現状や世界の人口問題について理解する。 ・村落と都市について「居住」に関してのそれぞれの問題について考察する。
	3 (4)					

※月の欄中の（ ）内の数字は月あたりの時間数

[3年：理型・応用理型] (2単位用)

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい
1 学期	4 (5)	第4章 生活文化 民族・宗教	1 世界の衣食住 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題 5 地域区分とは何か ※単元終了後、演習問題を入れる	・衣食住の違いを生活文化や民族と宗教の違いから考察する。 ・民族と宗教の分布や宗教のそれぞれの特徴について理解する。 ・現代世界の国家について国家や国境の意味について考察する。 ・世界の民族領土問題についてその原因を考察する。 ・現代世界はどのように地域区分されるのかを考察する。
	5 (5)			
	6 (7)			
	7 (5)	第2章 現代世界の 諸地域	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 イスラーム世界 ・中央アジア ・西アジア ・北アフリカ 5 中南アフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシアと周辺諸国 8 アングロアメリカ	・近隣諸国の研究について、韓国や中国をとりあげ日本との共通性や異質性について考察する。 ・地域調査について ASEAN 諸国をとりあげ生活や産業の多様性に注目し、理解を深める。 ・国家規模の地域調査についてインドをとりあげ生活や産業の多様性に注目し、テーマ別にアプローチし理解を深める。 ・地域の調査についてイスラーム世界をとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・地域の調査についてブラックアフリカをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてヨーロッパをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・地域の調査についてロシアをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてアメリカ合衆国をとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてラテンアメリカをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてオセアニアをとりあげ地域の多様性に着目させる。
2 学期	9 (7)	第2章 現代世界の 諸地域	9 ラテンアメリカ 10 オセアニア ※単元終了後、演習問題をやる	・日本の都市・居住問題、環境・エネルギー問題、少子高齢化などの諸問題について考察し、未来への問題解決にむけて考察し自分の言葉で表現することができる。
10 (7)				
11 (7)				
12 (6)				
3 学期	1 (5)	第2章 現代世界の 諸地域	1 現代世界と日本	
2 (3)				

※月の欄中の () 内の数字は月あたりの時間数

3. 評価の観点及び趣旨

- ① 関心・意欲・態度
地理的事象について関心と課題意識をもち、意欲的に追及することを通して国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
- ② 思考・判断
地理的・地誌的事象を世界的視野に立って多角的、多面的に考察するとともに、国際社会の変化に的確に対応し、公正に判断する。
- ③ 資料活用の技能・表現
諸資料を吟味して確実なものを選択し活用することを通して地理的事象を考察する力を持ち、自分の言葉で理解したことをまとめることができる。
- ④ 知識・理解
我が国及び世界の地域的・地理的な特徴についての基本的な事柄について理解し、知識を身につけている。

4. 評価の方法及び評価資料

- 日々の授業やプリントのまとめ、宿題・課題などの取り組み状況
- 中間・期末などの定期考査や小テスト
- 定期考査後に提出するファイルの提出状況
- 地理図説や地図帳の積極的な活用

これらを学習過程ごとに設定された学習到達目標に照らし合わせて評価を進める予定。

地理Bシラバス（5単位用）

教科名	科目名	対象学年	単位数	教科書
地歴	地理B	2年	(2単位)	「新詳地理B」「新詳高等地図」「COMPLETE2022」帝国書院 「サクシード地理」(啓隆社)
		3年(文型)	3単位	
		3年(応用文型)	3単位	

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 学習計画（2・3年継続履修）

[2年] (2単位用)

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい	
1 学期	4 (5)	第Ⅰ部 さまざまな地図 と地理的技能 第1章 地理情報と地図	地図の発達 1 現代世界の地図 2 世界観の変化と地図 地図の種類とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を地図化するメリットや地図化でわかることを理解する。 ・人々の世界観が変化するにつれて世界地図も大きく変化してきたことに気づかせる。 ・地球上の位置を表す際に用いる緯度・経度・赤道・北極点・南極点について理解する。 ・日本とロンドン、日本とNYなど時差を求める基本的なしくみについて理解し、東経・西経の違いから時差を導きだすことができる。 ・メルカトル図法・逝去方位図法・地球儀などの利点や図法の特徴について考察する。 ・地形図で用いられている地図記号について理解する。 	
	15 (5)				第2章 地図の活用と 地域調査
	6 (7)	第Ⅱ部 現代世界の系統 地理的考察	世界の地形 1 地形の成因 2 地球規模の大地形 3 河川と海岸の小地形 4 そのほかの特徴的な地形		<ul style="list-style-type: none"> ・地球上にはさまざまな地形が分布しており、その要因に内的営力と外的営力が作用していることに気づかせる。 ・内的営力や外的営力が作用してつくられる大地形にはどのようなものがあるのか、それぞれの地形の特徴について理解する。 ・特徴的な地形についてその形成過程や特徴について理解する。
	7 (5)				
2 学期	9 (7)	第1章 自然環境	世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 気候と植生・土壌 4 変化する気候 日本の自然の特徴と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・気候と気象の違いを理解し、気候の成り立ちについて考察できる。 ・ケッペンの気候区分の分類の指標について理解し、それぞれの気候区の特徴とそこに住む人々の生活の様子を考察させる。 ・各気候区の植生と土壌にどのような違いがあるか理解する。 ・長期的な気候変動と気候の変化が生活にどのような変化や影響を与えるのか考察する。 ・日本の自然の特徴と人々の生活について地形や気候の特徴と自然災害の特徴を理解するとともに、開発のあり方を考察する。 	
	10 (7)				1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災
	11 (7)	第2章 資源と産業	1 世界の農林水産業 2 食糧問題 3 世界のエネルギー・鉱山資源 4 資源・エネルギー問題 5 世界の工業 6 第3次産業		<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産と流通について農業地域区分を通して大観し、現代世界の農業の現状と課題および世界の中の日本の農業の課題について考察する。 ・人口、食糧問題について世界の人口の動向と食料生産の地域的かたよりについて理解する。 ・エネルギー、鉱山資源の生産と消費についてその分布を大観し、現状と課題について考察する。 ・工業製品の生産と流通について、世界の工業地域から理解する。現状と課題についても日本と比較しながら考察する。 ・第1、2次産業との違いとその発展の経緯について理解する。 ・世界を結ぶ交通、通信について、その発達と地域差について考察する。 ・現代世界の貿易と経済圏について現状や課題、世界の中での日本の貿易の課題について考察する。
	12 (5)				
3 学期	1 (5)	第3章 人口 村落・都市	1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口、食糧問題について世界の人口の動向と食料生産の地域的な偏りを考察し、日本の少子高齢化の現状や世界の人口問題について理解する。 ・村落と都市について「居住」に関してのそれぞれの問題について考察する。 	
	2 (6)				
	3 (4)				

※月の欄中の（ ）内の数字は月あたりの時間数

[3年：文型・応用文型] (3単位用)

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい
1 学期	4 (7)	第4章 生活文化 民族・宗教	1 世界の衣食住	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の違いを生活文化や民族と宗教の違いから考察する。 ・民族と宗教の分布や宗教のそれぞれの特徴について理解する。 ・現代世界の国家について国家や国境の意味について考察する。 ・世界の民族領土問題についてその原因を考察する。
	5 (7)		2 民族と宗教	
	6 (11)		3 現代世界の国家	
		7 (7)	第3部 現代世界の 地誌的考察 第1章 現代世界の地域 区分	4 民族・領土問題
2 学期	9 (11)	第2章 現代世界の 諸地域	5 地域区分とは何か ※単元終了後、演習問題を入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣諸国の研究について、韓国や中国をとりあげ日本との共通性や異質性について考察する。 ・地域調査について ASEAN 諸国をとりあげ生活や産業の多様性に注目し、理解を深める。 ・国家規模の地域調査についてインドをとりあげ生活や産業の多様性に注目し、テーマ別にアプローチし理解を深める。 ・地域の調査についてイスラーム世界をとりあげ地域の多様性に着目させる。
	10 (11)		1 東アジア	
	11 (11)		2 東南アジア	
	12 (9)		3 南アジア	
3 学期	1 (7)	第2章 現代世界の 諸地域	4 イスラーム世界 ・中央アジア ・西アジア ・北アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の調査についてブラックアフリカをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてヨーロッパをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・地域の調査についてロシアをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてアメリカ合衆国をとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてラテンアメリカをとりあげ地域の多様性に着目させる。 ・州や大陸規模の地域の調査についてオセアニアをとりあげ地域の多様性に着目させる。
	2 (4)		5 中南アフリカ	
			6 ヨーロッパ	
			7 ロシアと周辺諸国	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の都市・居住問題、環境・エネルギー問題、少子高齢化などの諸問題について考察し、未来への問題解決にむけて考察し自分の言葉で表現することができる。
		8 アングロアメリカ		
			9 ラテンアメリカ	
			10 オセアニア ※単元終了後、演習問題を入れる	
			1 現代世界と日本	

※月の欄中の () 内の数字は月あたりの時間数

3. 評価の観点及び趣旨

- ⑤ 関心・意欲・態度
地理的事象について関心と課題意識をもち、意欲的に追及することを通して国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
- ⑥ 思考・判断
地理的・地誌的事象を世界的視野に立って多角的、多面的に考察するとともに、国際社会の変化に的確に対応し、公正に判断する。
- ⑦ 資料活用の技能・表現
諸資料を吟味して確実なものを選択し活用することを通して地理的事象を考察する力を持ち、自分の言葉で理解したことをまとめることができる。
- ⑧ 知識・理解
我が国及び世界の地域的・地理的な特徴についての基本的な事柄について理解し、知識を身につけている。

4. 評価の方法及び評価資料

- 日々の授業やプリントのまとめ、宿題・課題などの取り組み状況
- 中間・期末などの定期考査や小テスト
- 定期考査後に提出するファイルの提出状況
- 地理図説や地図帳の積極的な活用

これらを学習過程ごとに設定された学習到達目標に照らし合わせて評価を進める予定。